

T D A 活動 今後の課題

日本テキスタイルデザイン協会 理事長
わたなべ ひろこ

日本テキスタイルデザイン協会(T D A) 創立の理念は定款の中にも明記されていますが、その主なものに、テキスタイルデザイナーの地位向上や知的所有権の保護、繊維文化の向上と繊維産業の高揚発展に寄与する事などが挙げられています。これ等を具現化していくには、具体的な方針や実践がともなわなければなりません。私が理事長に就任しました2001年初頭の「T D A ニュース」に私なりの指針を発表しました。日本人の特性や技術をもって付加価値の高い、人間の本質をふまえた「ものづくり」を提唱したいと思い、次の6項目を記載しました。これを今一度反芻してみたいと思います。

【T D A 活動基本方針】

- (目) テクノロジーと感性を融合させた付加価値の高い商品の開発を実践します。
- (月) 日本の豊かな地場産業の技と心を大切に、積極的にその復活に参画します。
- (火) 世界的展望に立って未来を予測し、日本のクリエイションをアピールさせるべく努力します。
- (水) 次世代の人材育成を真剣に考え、実践すると共に、産学交流プロジェクトの新しい可能性を広げます。
- (木) 人間と地球を大切にしたものづくり、産業と文化を併せ持った経済の発展を推進します。
- (金) 常に新しい時代の発想と改革にチャレンジし、智慧と勇気と信念をもって日本の未来を拓くために行動します。

この方向性はいまま基本的には変わっていません。しかしこの4年間、期待しただけの結果が得られたのでしょうか。大変疑問に思えます。賛助会員企業との協力によるものづくりや、他団体への支援、また協力参加や交流、中小企業事業団の助成を得ての自主発表会、同様に力を注いだ人材育成事業、大阪・東京と同時進行で開催したT D A テキスタイル・スクールの開校、特に工場での実地実習を行ったサマーセミナー、若い人を対象とした企業ガイダンスの試み等々、それなりに協会事業として努力してきましたが、それだけで事足りる結果が得られるほど簡単なものではないことを知らされました。

現在、日本の繊維産業の活性化には、時代の変化と新しいニーズに対応する人材の輩出が求められています。従来のパターンデザインを中心としたテキスタイルデザインから、素材や加工技法、市場をも熟知するデザイナー、コーディネーター、プロモーター的なうごきの出来るインパナトーレと称されるキャリアの存在が強く求められるようになりました。T D A はそれに対応できる人材の集団に成長せねばなりません。既成デザイナーの更なる再生と、未来を拓く次世代の人材育成はT D A 自らが背負わなければならぬ重要な課題のひとつだと思います。

しかし、ものづくりやクリエイターの育成には時間が必要であることも認識せねばなりません。継続と地